



東都家奉記

秋

四

76
3375
4



門 8
號 3375
卷 4



秋

秋滿品川十二標東方
騎

簇銀鞞清歌一闋人如月笑

指滄波洗玉盤 徂徠

早稲田 天馬 圖書印
第 25 卷 1 冊
見 註

江戸歳事記卷之三秋之部

七月

圖書印

圖書印

朔日○本所羅漢禪寺施儀鬼今日より晦日迄修行 毎日羅漢供養
盃蘭盆経誦

十日 廿八日 晦日 大せがき修行川せがき 八分なり修行中四方の住俗群多し

○高月ハ諸寺院水陸會修ありて悉く記し演説ありて一二を挙ぐ

○水道橋三橋橋石より飛癒の神業切多し是も八月二の午の件あり

○同是不動より南中延八幡宮靈室出掛異説法源頼義約は高八幡文津像成我家
約は儀の人の仕あり

二日○煤掛出掛今日より十二日までの間晴天と擇ひ屋中の煤と掃ひ又新書衣類
器物木の虫掛と多し高家みちの希は幕を捲りて高ひりのとさうりて院乃交郡
外社の灵宝曝凍と日限大々定り有て内津とゆうす

四日○本所回向院より子住小柄系の別院小於て大施儀鬼修行

刑死の族迷魂海脱の事いふとあり

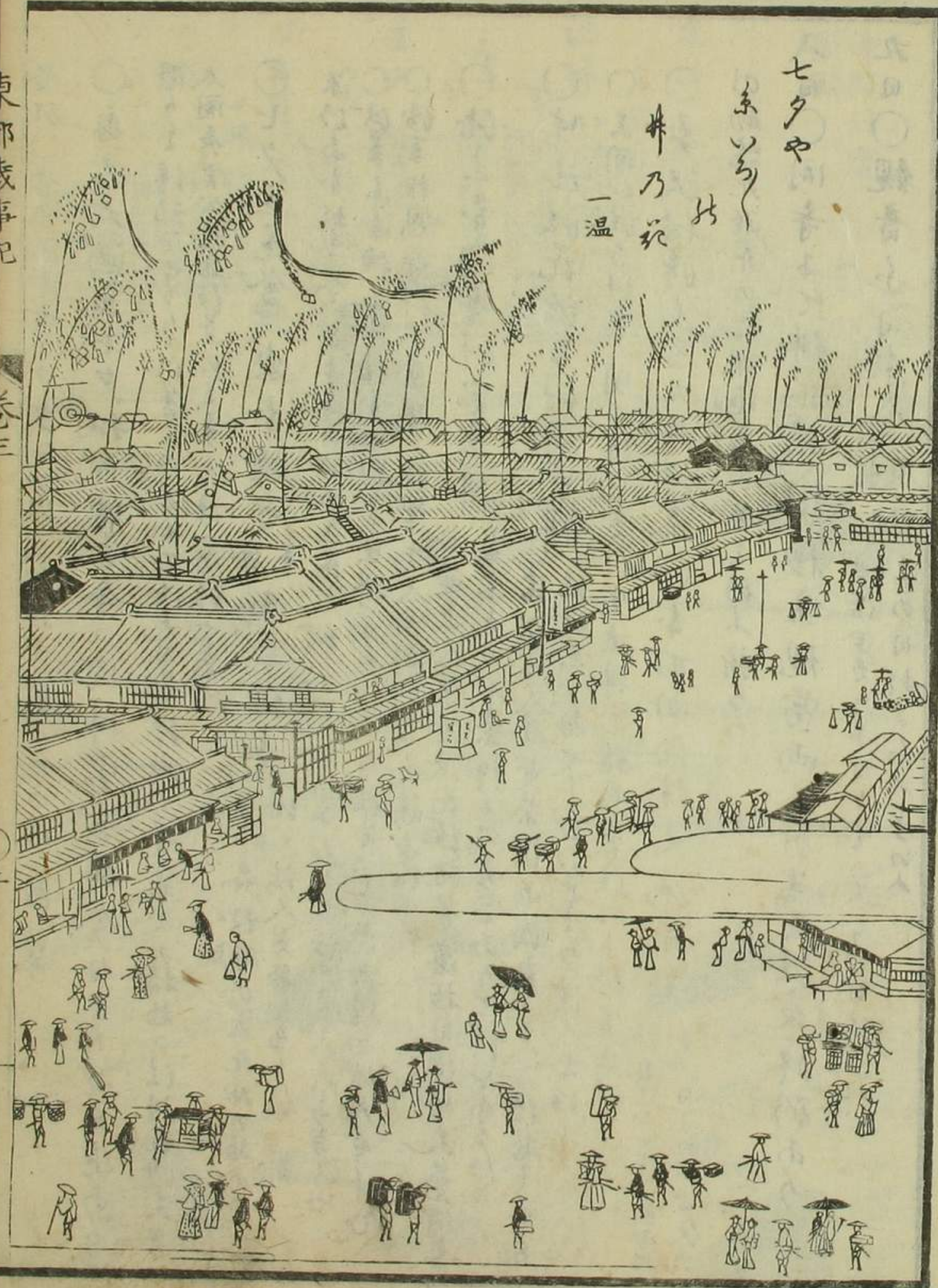
六日○今朝未だより毎家屋上より経冊竹とさうりて中ふハ工とそしてソウの
作り物とありて井とともさうりて人の身りのとさうりて年のおうり

七日○七夕祈祝伎諸侯白帷子とて祈礼 今朝書物とて二里と
作し待をさうりて家々冷索懸成

吉川惟足

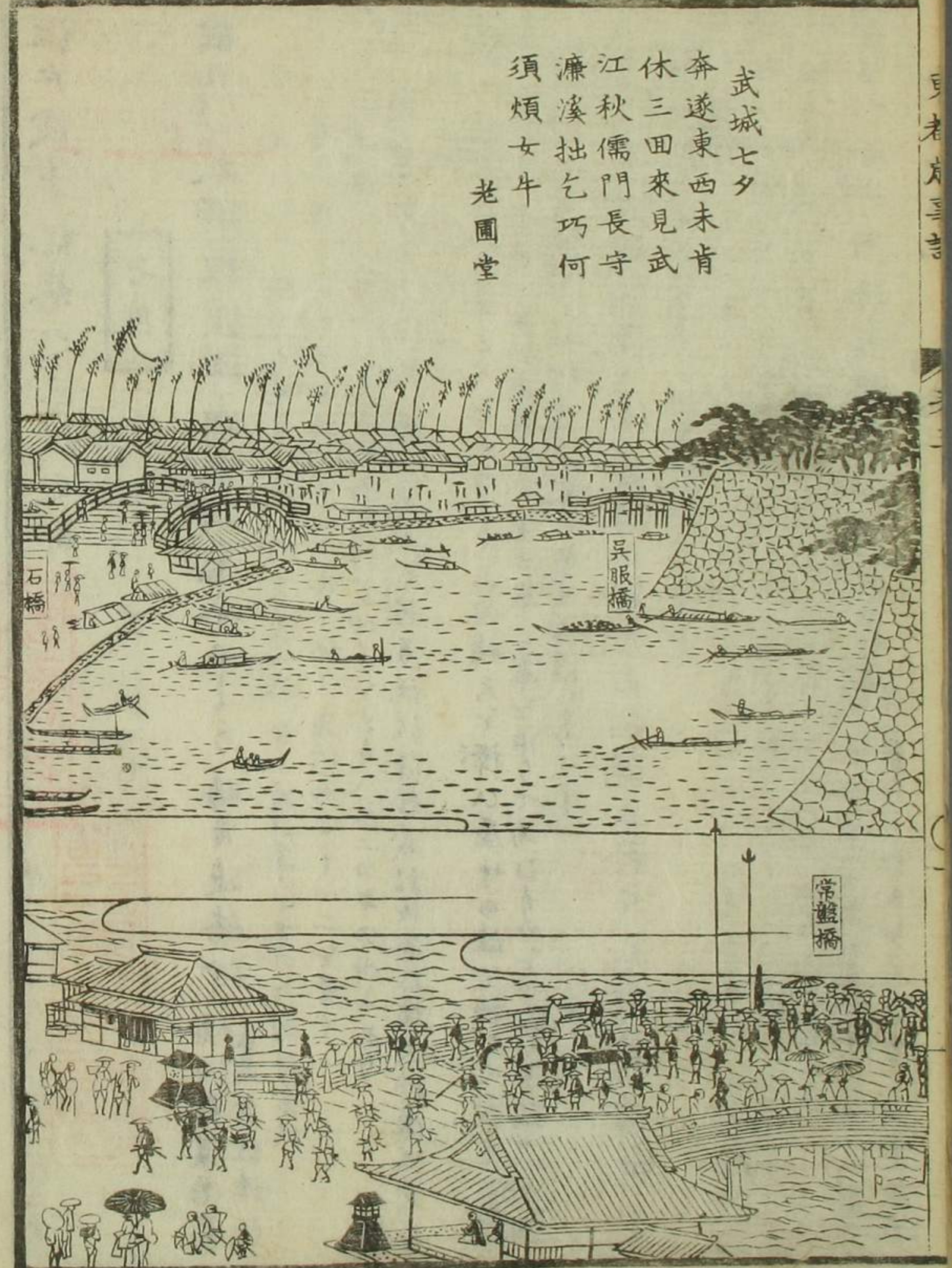
東邦歳事記

卷三



七夕也
 糸乃玩
 一温

武城七夕
 奔遂東西未肯
 休三回來見武
 江秋儒門長守
 濂溪拙乞巧何
 須煩女牛
 老圃堂



登以○古原遊女者七夕祭を以て一宮後や江戸の観の波に隈は非

○江戸天満宮七夕和衣連會。同神宝出拂今日より九日迄あり
櫻り上縁化と申すは菱公の天女の御太刀管針衝志筆並に御持。法性坊志筆
太閤秀吉公持物御筆の文意お種々の神宝あり

○七夕立花會 東本願寺 西本願寺 各教職の立花砂の飾あり
地 徳人見物と申すは

東本願寺 又六角寺池の坊の立花も牛女も多有り江戸もあれ申すは
○西本願寺 御本願寺中徳本寺付宝出拂本寺佐川慶信寺長徳及遠物御持申すは

○浄土本門寺付宝出拂 親鸞上人回國の發志遠あり
日蓮上人筆法花経同筆遺物同筆同志筆消息
貞宗太刀を余種々の具宝ありて浄と申すは

○中山法花経寺付宝出拂 宗祖上人筆曼荼羅并消息上人の持物と申すは
法性寺と申すは江戸より法入あり

○志願寺付宝 同而徳寧寺付宝出拂 雜司谷法時寺付宝出拂
○奥沢村浄土寺九品佛念 ○本町回向院大施威鬼 曆二年丁酉四月
十八日十九日御火火

の初焼死溺死の亡魂追薦の為より祈り

八日○同寺にて佛餉施入の檀主現當両益の為より法事修りあり

九日○観音寺日系今日明日 世儀万六日ともいふの日法つれは
あの日教又向いといふ



東部歳事記

法華寺

本日の同登... 法華寺 本日の同登... 法華寺

本不田向院一言親音

本不田向院一言親音

回谷南寺町汐干親音

回谷南寺町汐干親音

牛込神樂坂上懸掛親音

牛込神樂坂上懸掛親音

○十日の穀例年

○十日の穀例年

十二日○草市

十二日○草市

十三日○同市立川

十三日○同市立川

同門跡系

同門跡系

○精霊祭

○精霊祭

燎く十六日の送火とて又麻...

七月十三日 王子権現 社祭禮 古名を以て あら小様一 出せり

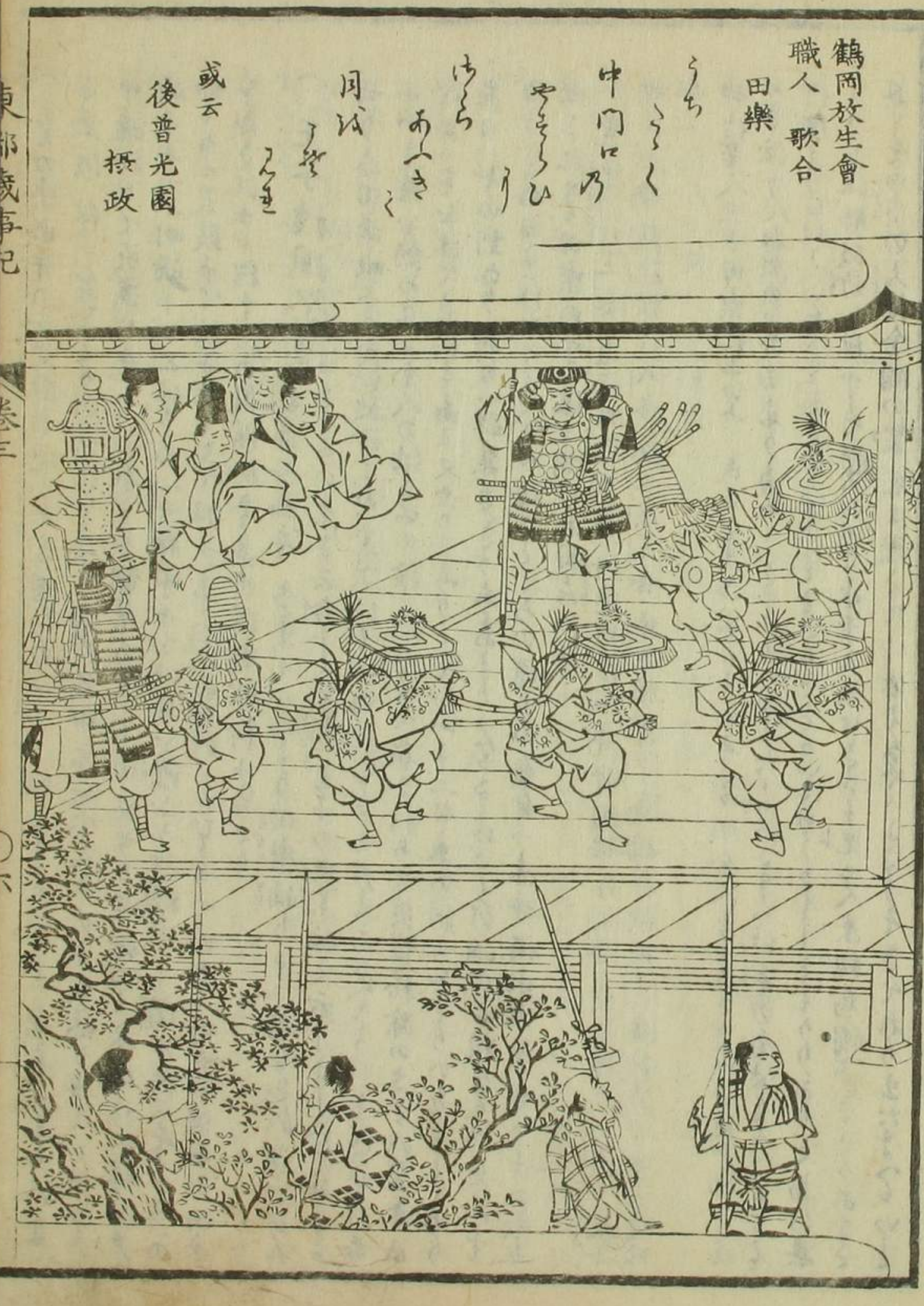


其二



鶴岡放生會
職人 歌合
田樂

中門口乃
あき
月以
或云
後普光園
攝政



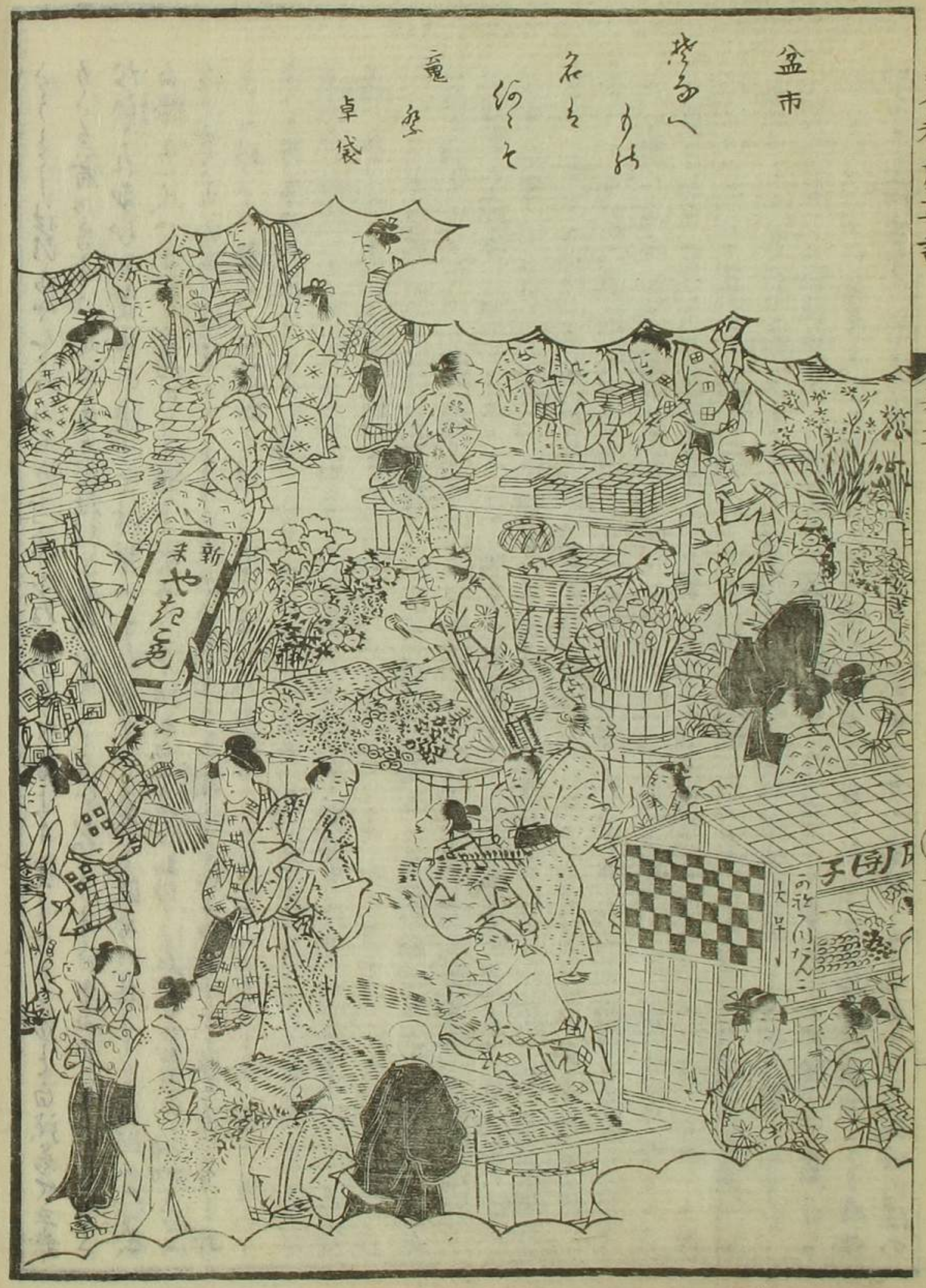


江戸の賑わい

琴風
玉虫
うす
買時

信也

信也



身者前事言

盆市
名々
何々
卓袋

新也

子園

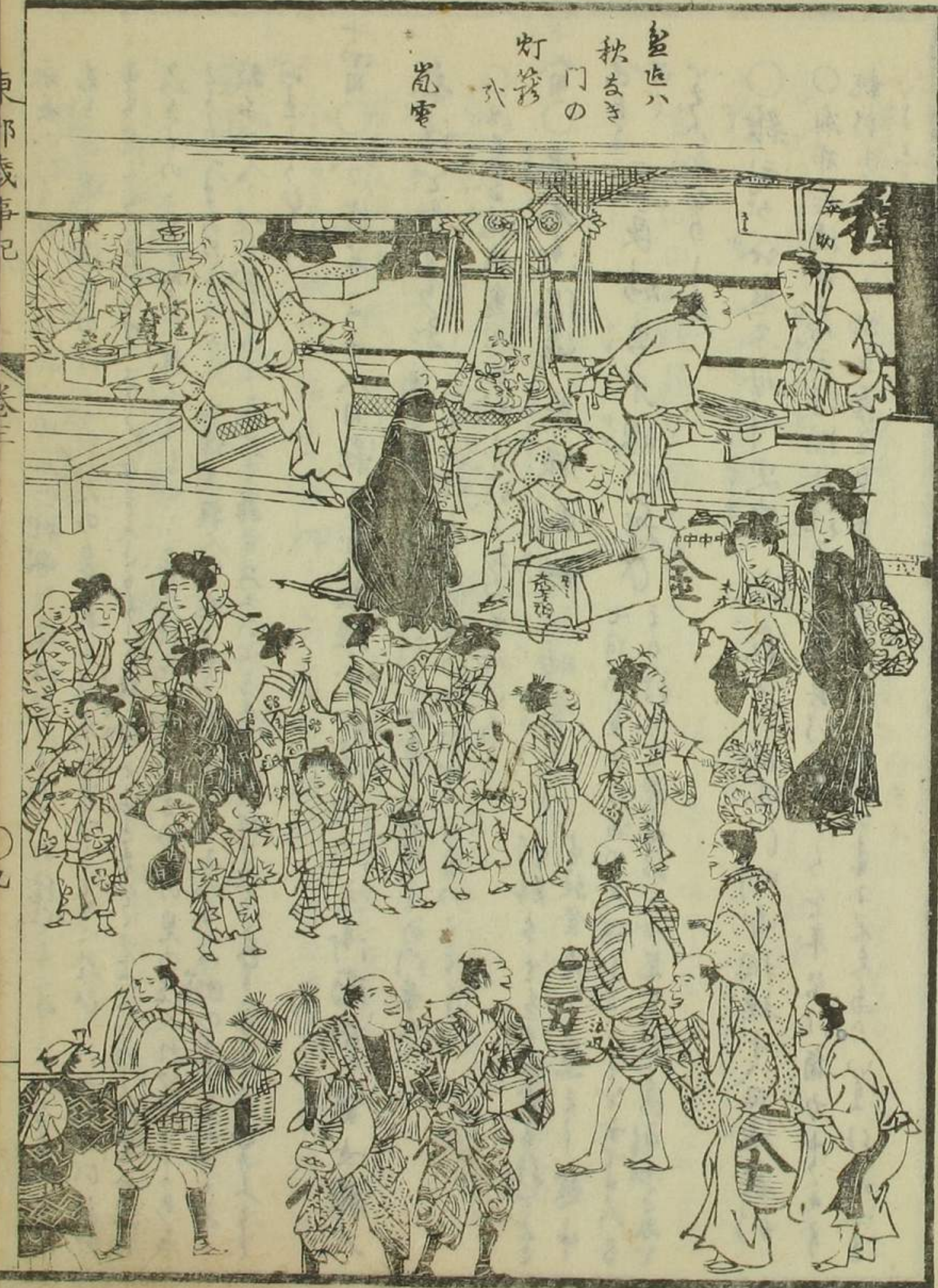
盆中往来
の圖

五元集

桐油よ
よまぬれ
しほの油
とろひゆ
とろひゆ
の有云價
宝珠と洗
せりふを
ありし
衣あるは
つと
つと
つと



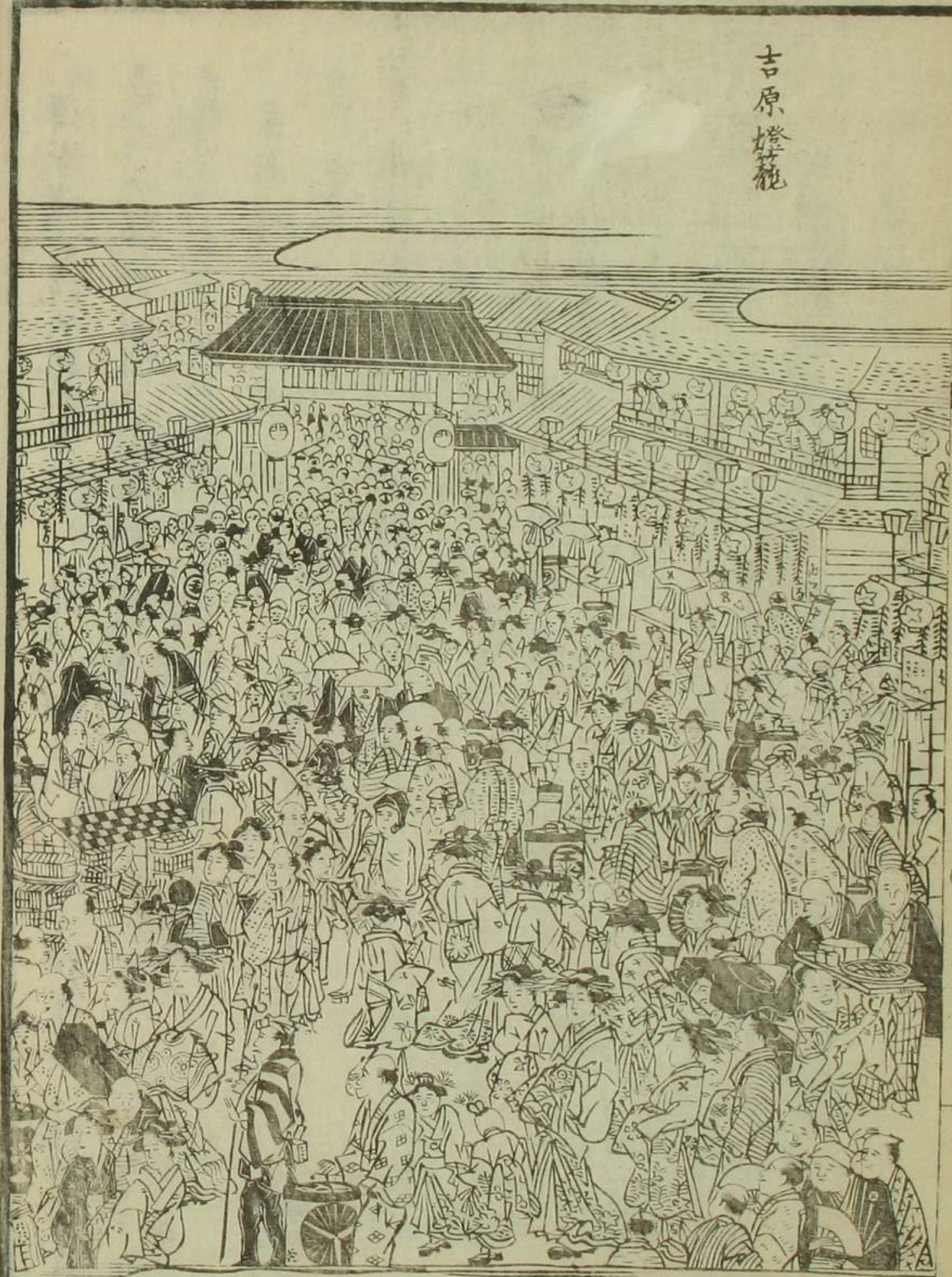
盆近ハ
秋まき
門の
灯笼
式
嵐電



曲阪長堤
 起晚埃
 無人不道
 觀燈回
 黃昏火點
 家々樹
 一夕秋風
 花盡開
 無名氏



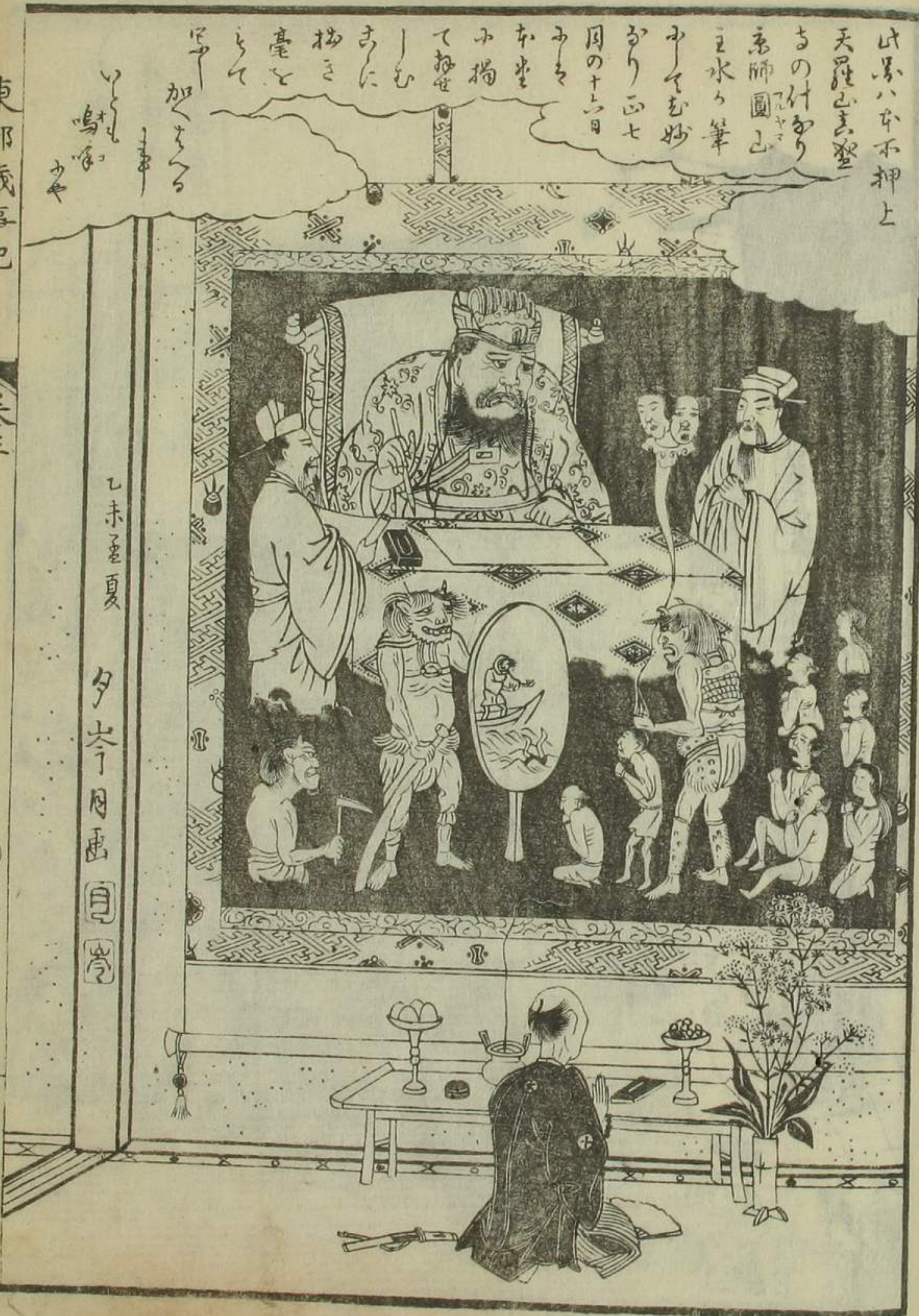
吉原燈籠



○同麟祥院從二位春日局影像と并せしむ正月十六日のこと
 ○深川寺町浦後と施殿鬼 ○小橋方象と出佛住師志等の題目と并せしむ
 ○川口長光寺阿彌と困帳

○同慈徳天寺鉢陀經子部廿六日迄修り 音樂あり乃依日毎小群ま
 開山祐天大僧正八十二才等才の志願本。同八十七才志願本。同八十二才修徳志願本。
 同遠骨舍利。同舌根。銀鞋七太刀才代名号。根牙落の名号。火中出現の名号。施徳寺
 名号。大車多現名号。火防寺。開山三十九才累女海波の名号。開山累波友の如法衣衣
 衆袈裟。伏紙茶鐘本。慈徳天皇御代阿鉢陀如來。中御姫感得阿鉢陀如來。聖徳太子
 四等名号。醍醐光佛聖徳太子自然及舍利。雲紙阿鉢陀如來。修徳禪師書徳。圓
 光大師自他志願。同華紺紙念泥十念名号。一板起法文結為聖光上人等。開山衣收
 の像。依天信。蜀紅綿九条袈裟。藕糸六条袈裟。玄宗皇帝現箱英訳路の像。開山衣收
 地巻の像。在外佛画佛像の類多し

○奥沢村淨真寺 九品 什寶出拵十八日まを拜とあり 是宝を去り
 紀世普く世人の知る所なり。芝林大名号中九尺長十之五。加徳太子等名号。以
 法大師等名号。同等念泥光明名号。若守大師等名号。中御姫蓮糸名号。同華
 稱讚淨土經。文覚筆殺若心經。開山杖。咸陽宮瓦硯。光明佛鐘。珂憶上人等二河
 白乃の景。同等若守大師心彩。同等圓光大師心彩。以庵和尚等蹟。九不淨土大
 曼荼羅。珂憶上人等名号。圓光大師等名号。亡者の文某度の家士堤劫在り
 が先妻の死灵後妻とあり。乃是八同儀若奈某尚寺開山珂願上人湯と化皮と



東都歳事記

卷三

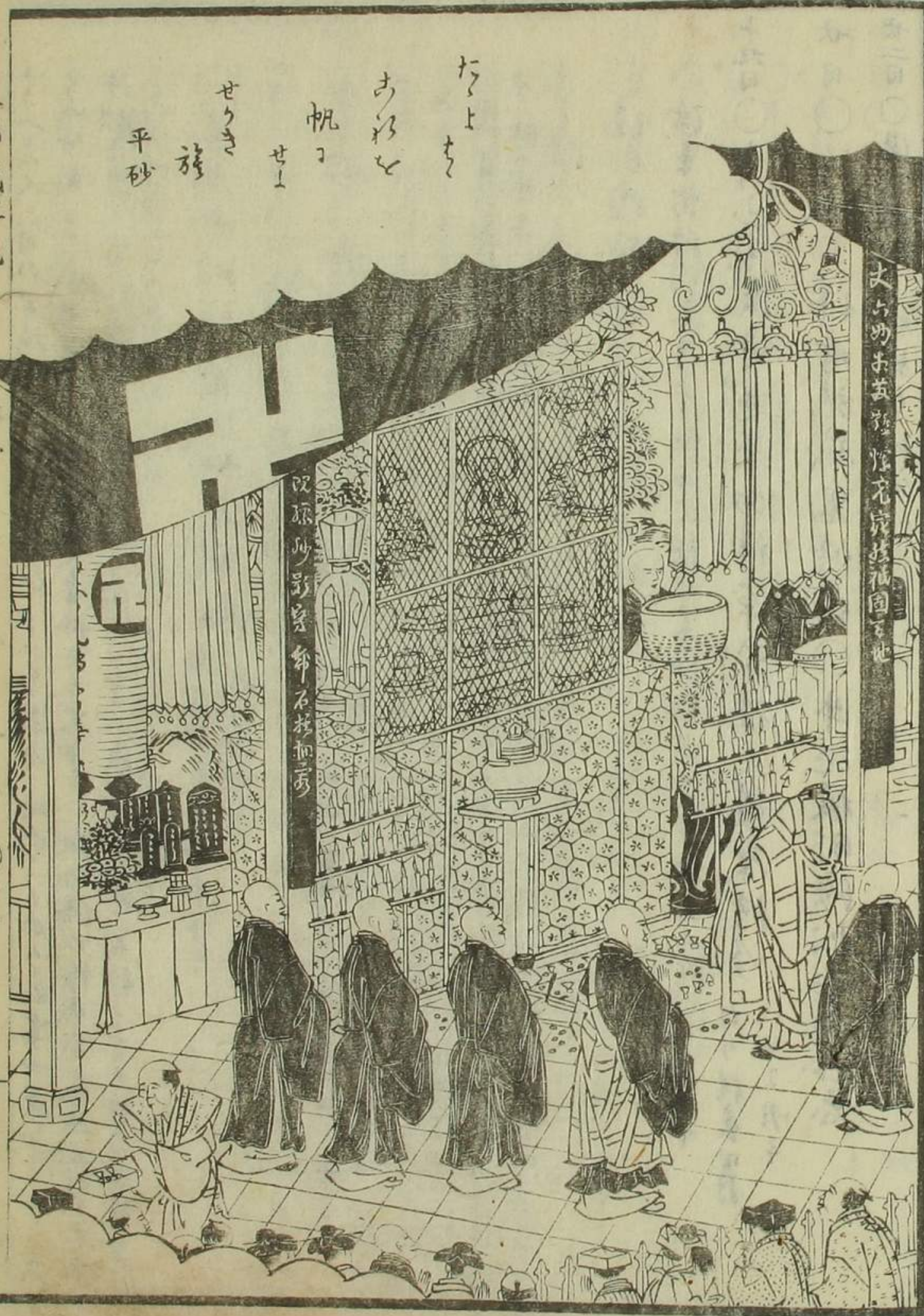
三

此景ハ本不押上
 天羅山志登
 ちの付あり
 志願圖
 之水々筆
 中々を妙
 かり西七
 月の十六日
 加徳太子
 加徳太子
 加徳太子

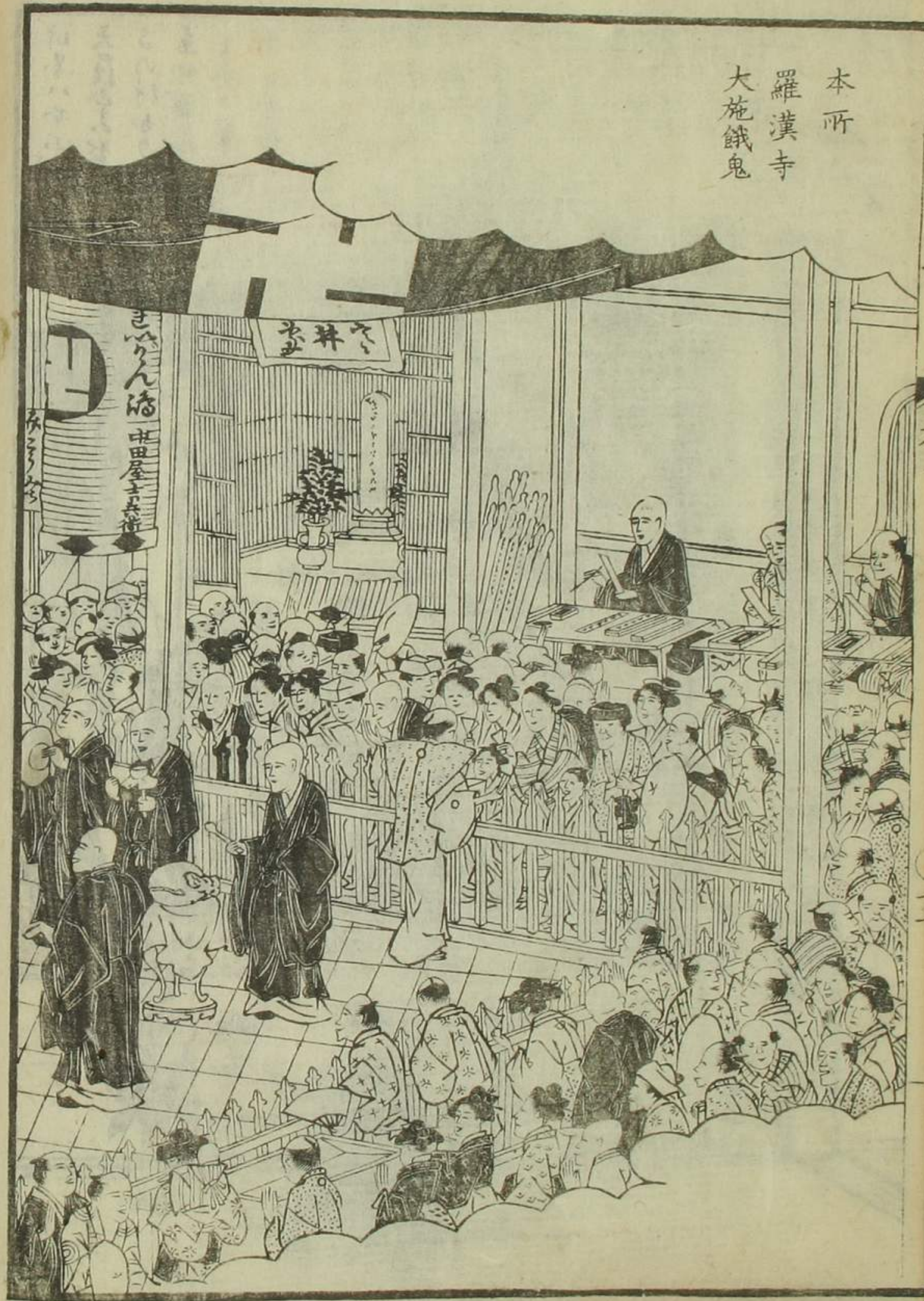
乙未夏

夕六十月画

たよ
あはれ
帆
せうき
平砂



本所
羅漢寺
大施餓鬼



くへ上人三日の旨施威鬼をひひのひよを今迄文よりぬき女等ととりく悪
くめを免ふるをひひく若奈某へ書跡せり文あり。血の池の帷ふ本芝茂本町の南赤
毛羽屋某へ妻産産ふく死しつらう同し上人の悪化やうて成候しつら帷子以残せり
といひ四月二日の来り候なり

○吉原京町二丁目旭如來開帳 旭丸を多なる存はま
ま法あり

十七日○本台六丁目森福寺施威鬼

十八日○増上寺開山忌 開山園養上人聖徳大和尚の忌よりて法起を彼らより
方丈より列と揃へく本堂へ出仕せ程多し開山上人の本徳を四方寺より
十念ありてせく本堂へ迂りて途中天蓋とありて 散花あり方丈へ練ふ年一各信
以者童子布衣素袍退紅白浪赤の徒者と具せりて是を多ありて有樂儀修りてあり
夕終りて午刻退散ありての時多法修の諸人へ十念と揃らる今日も修修集まふ
おと駈し法舎修りてより山とてむり法修人樓とよ登りてありてあり

○堀の内妙法寺法花經子部廿七日迄修り かの留書をの巻より毎日

○浅草雷門前寺坊主て親世を縁起具宝出拂ありて洋とあり

十九日○青山風園寺逆峯の神事栄燈大獲摩修り ねり代表買月
八日一唯と

廿日○詢込吉祥寺施威鬼修り ○牛込榎町海松寺開山忌

廿二日○湯島圓法寺施威鬼修り

廿二日○谷中三橋法修り 世俗おどろすの 施威鬼廿九日迄修り 高法
かんといふ

○浅草日輪寺あて一遍上人の忌日法修り八月おれをもえりてあり

廿四日○小石川戸崎町修り多れ都下より信人あり

廿六日○浅草本法寺修り谷中修り ○無戸光寺施威鬼修り 六日あり

廿六日○女六修り 記せる地を分て群集する多し難く有りて修り

芝高輪 品川 けいふ所と今秋登親の第一とて江戸府の良徳兼日より約し修り
のち妓輔簡女俗の属群とありての地本集りておとありて修り

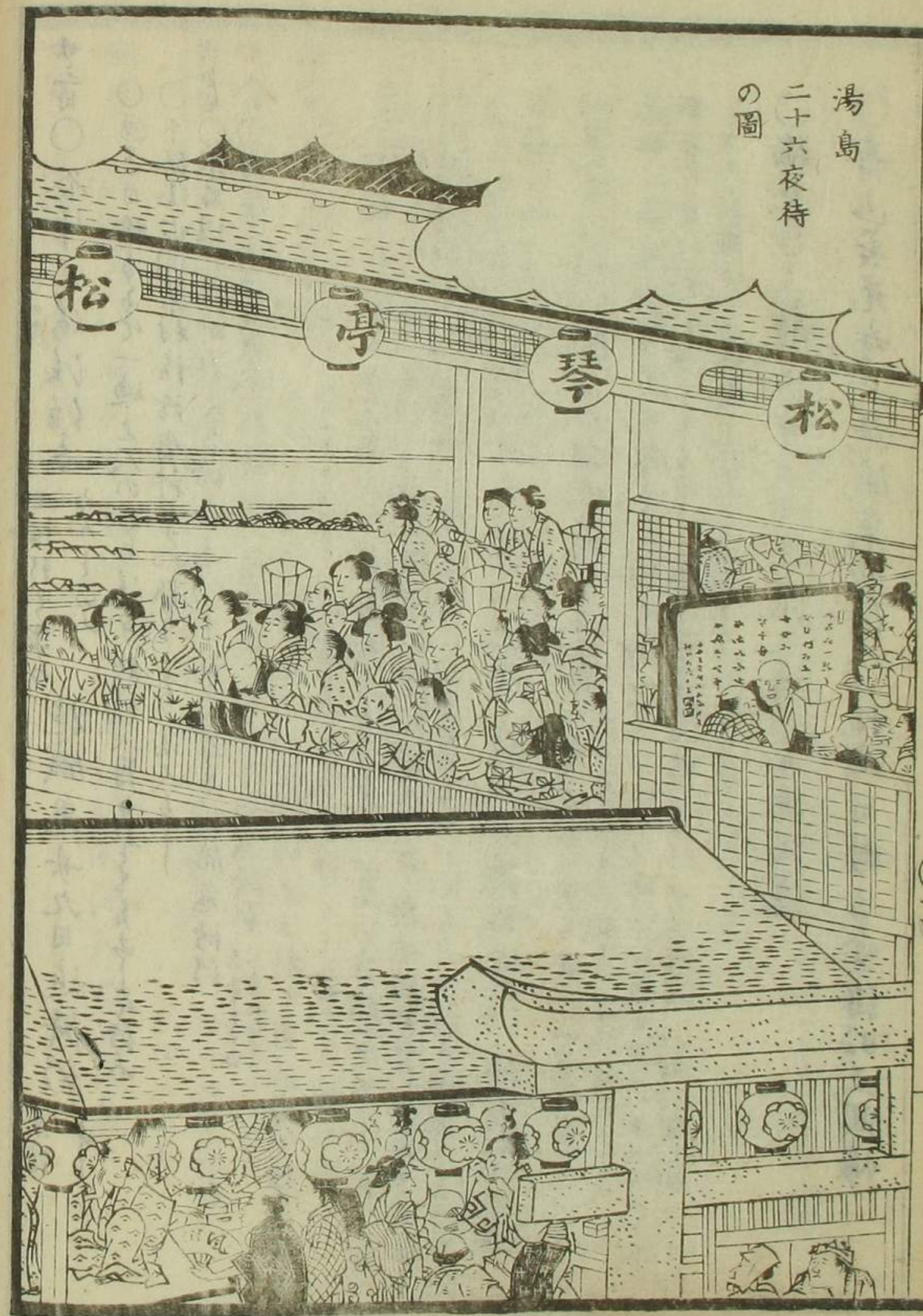
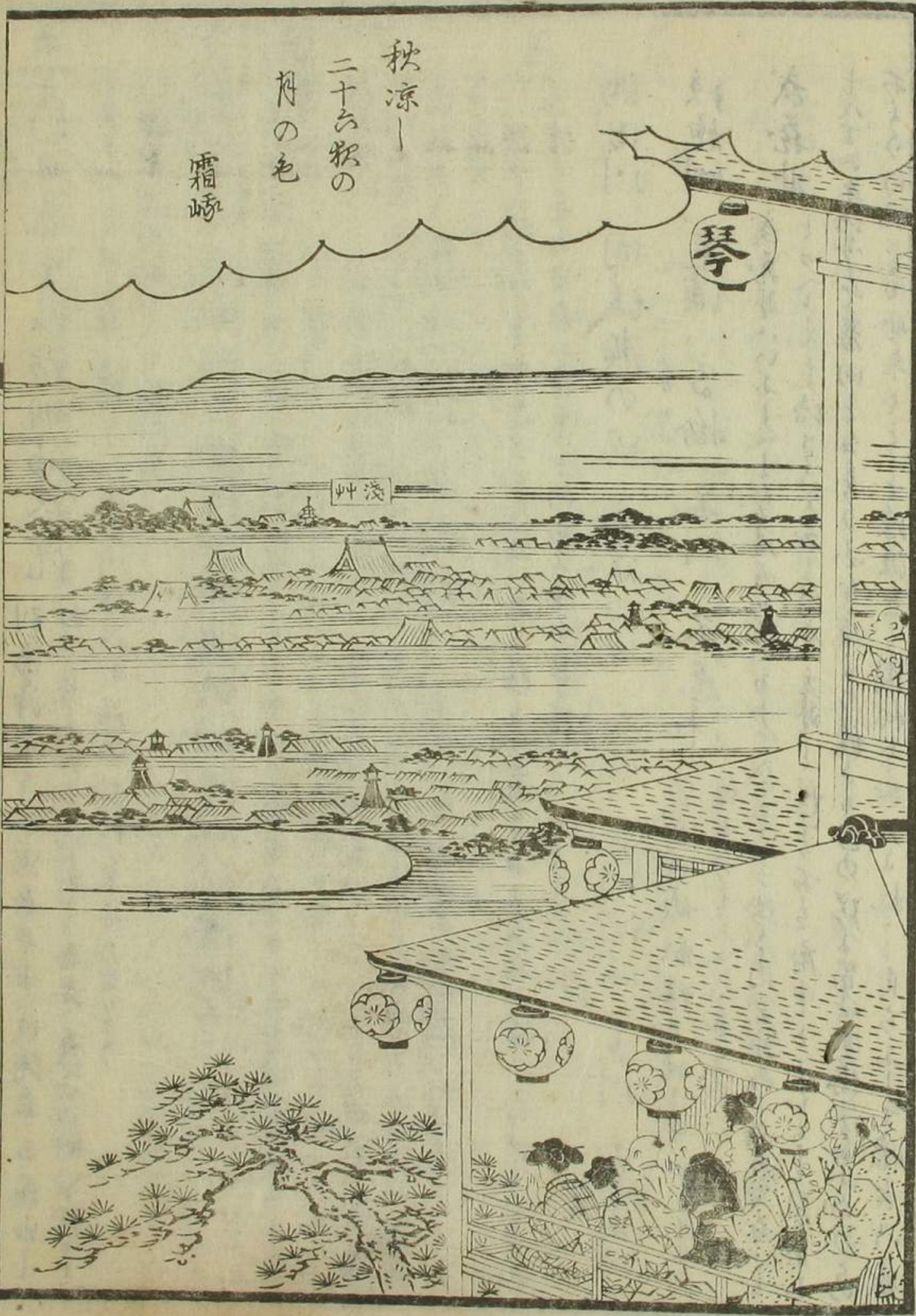
湯島天満宮境内 飯田町九段坂

日暮里坂坊社辺 日向不動尊境内 西浦小向て月と看り不攸りあり

天和二年編輯の葉のゆりて田安門外とありて修り正月七月の廿六日の曉は
不月月の出と洋しありてあり今八月の修りて正月廿六日修り候ありて

○稲付むし 静務寺太田道灌入道の木像開帳

○青山若光寺大施威鬼修り ○板橋日曜寺愛染明王開帳



八月

朔日 ○八朔祈祝儀

ハハ時白帷子

貴賤佳節と祝志

今日と田舎といひく

とも奉給ふて... 祝志... 八月一日

○今日吉原遊女一殺... 白小袖

○今日吉原遊女一殺... 白小袖... 仲の町へ出る

○今日吉原遊女一殺... 白小袖... 今日白雲塔と云する

○今日吉原遊女一殺... 白小袖... 子八元禄の以江戸町

○今日吉原遊女一殺... 白小袖... 花街の行方ハ繁多

○今日吉原遊女一殺... 白小袖... 妙光寺 内大臣

二の午日 ○小川町... 八月

○六阿弥陀系 札所観音系 奥沢九不佛系

○湯崎園波と土砂加持修り

○増上寺沙堂と山と園と登樓とゆり

○湯崎園波と土砂加持修り

○湯崎園波と土砂加持修り

○湯崎園波と土砂加持修り

○湯崎園波と土砂加持修り

○湯崎園波と土砂加持修り

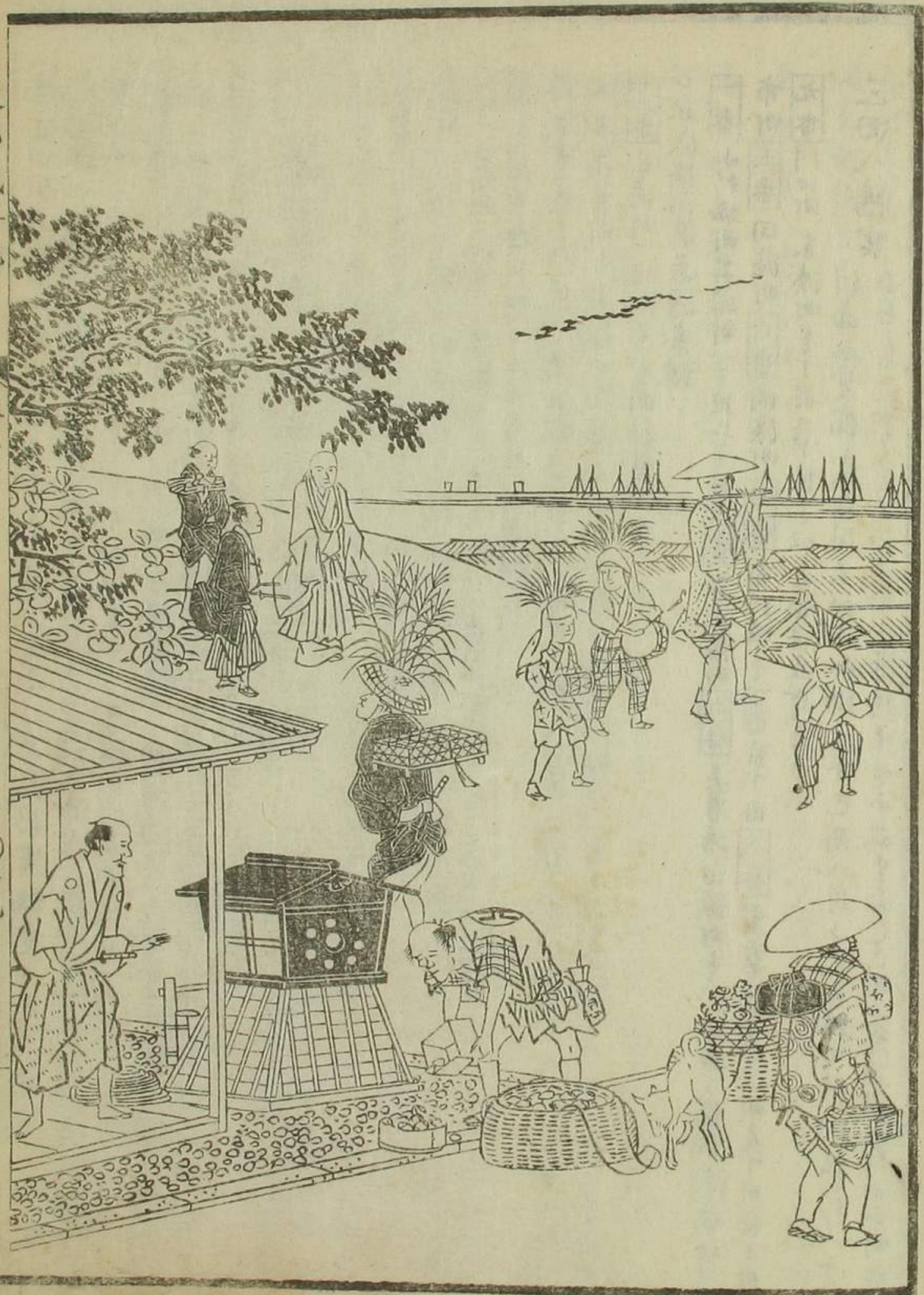
○湯崎園波と土砂加持修り

○湯崎園波と土砂加持修り

○湯崎園波と土砂加持修り

○湯崎園波と土砂加持修り

○湯崎園波と土砂加持修り



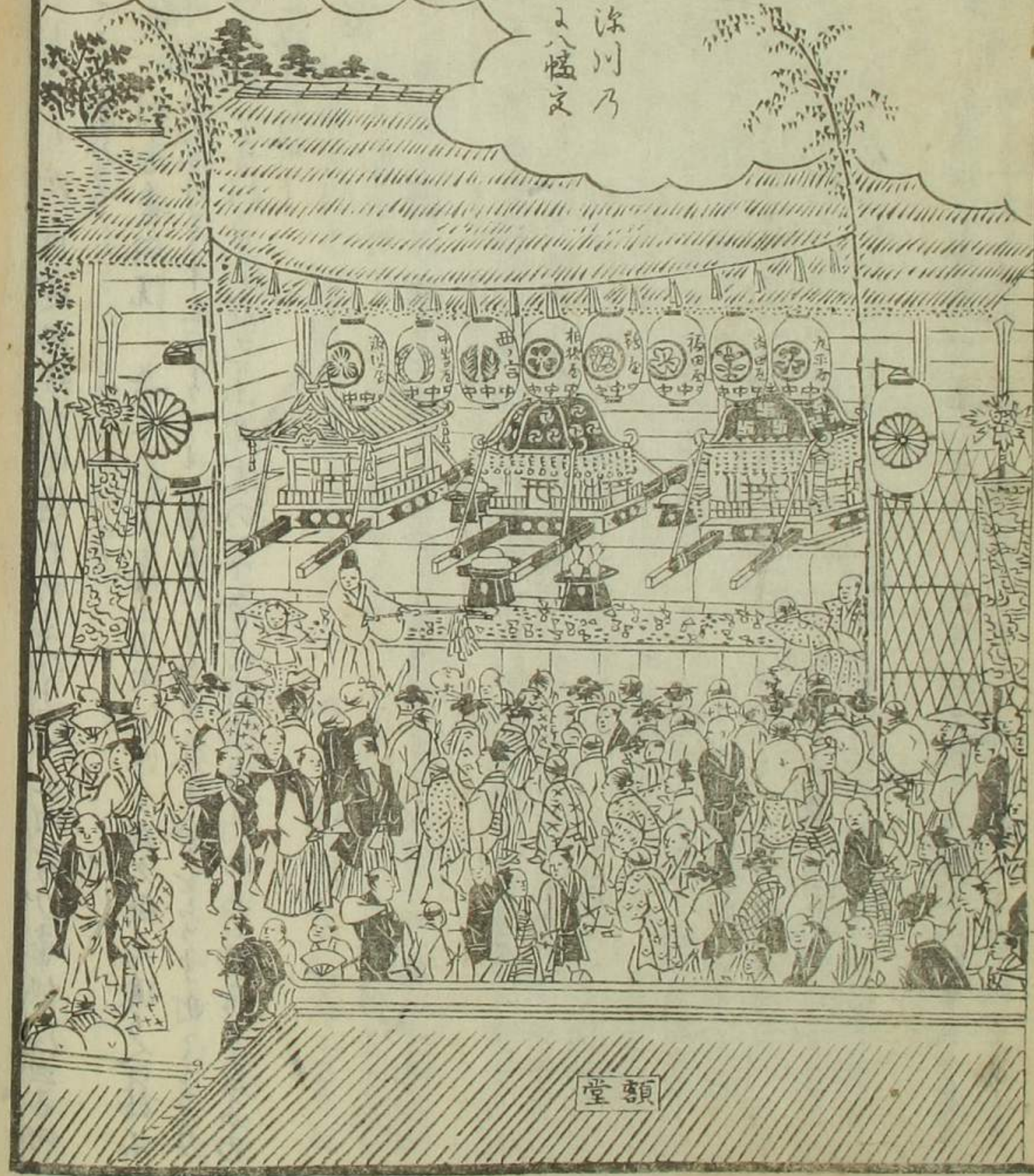
江近通溝水
 城頭魚自肥
 秋風吹一夕
 處處釣鱸歸
 南郭



八月十五日
富賀岡八幡宮
祭禮

視吾堂集

武跡のひんうー深川乃
流と清きわたり又八幡文
いそれおつゝま
あのおのつゝ
永代清くかんより
八十の致系持と
く包てもくそへむき
中と遠く江城以
の身め、洛陽令殿
はくそをひりりふ
たりそく清より
くふ船、涙のそり



くこくこりいさか
ゆう男山のありけ
うしひく和光まふ
ねりしれゆいマヤ
たふらね
霊地から
下

岩清あ

幸

流ま

東海よ

む

永き代乃

志は

名

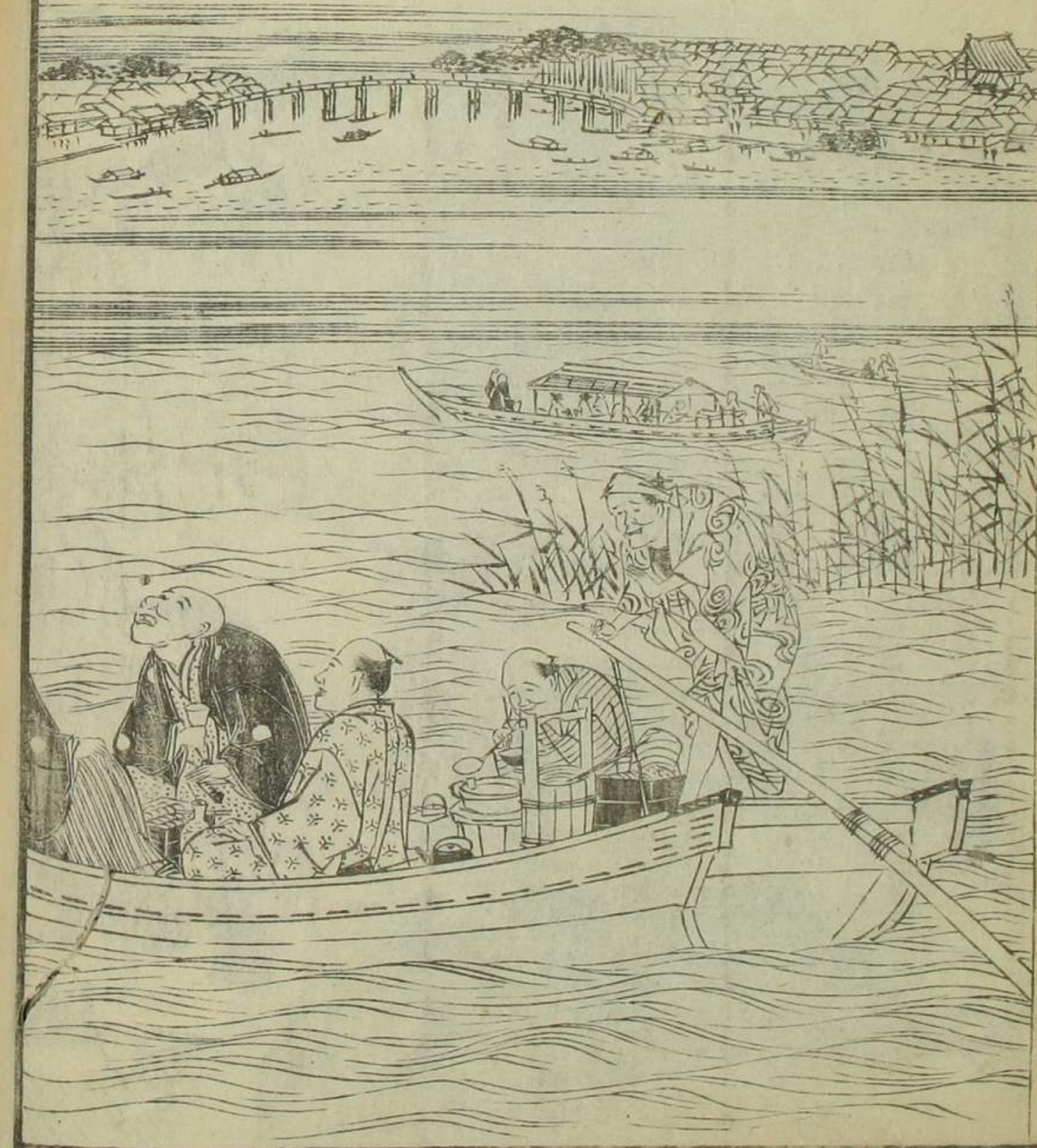
惟足



東都雜事記

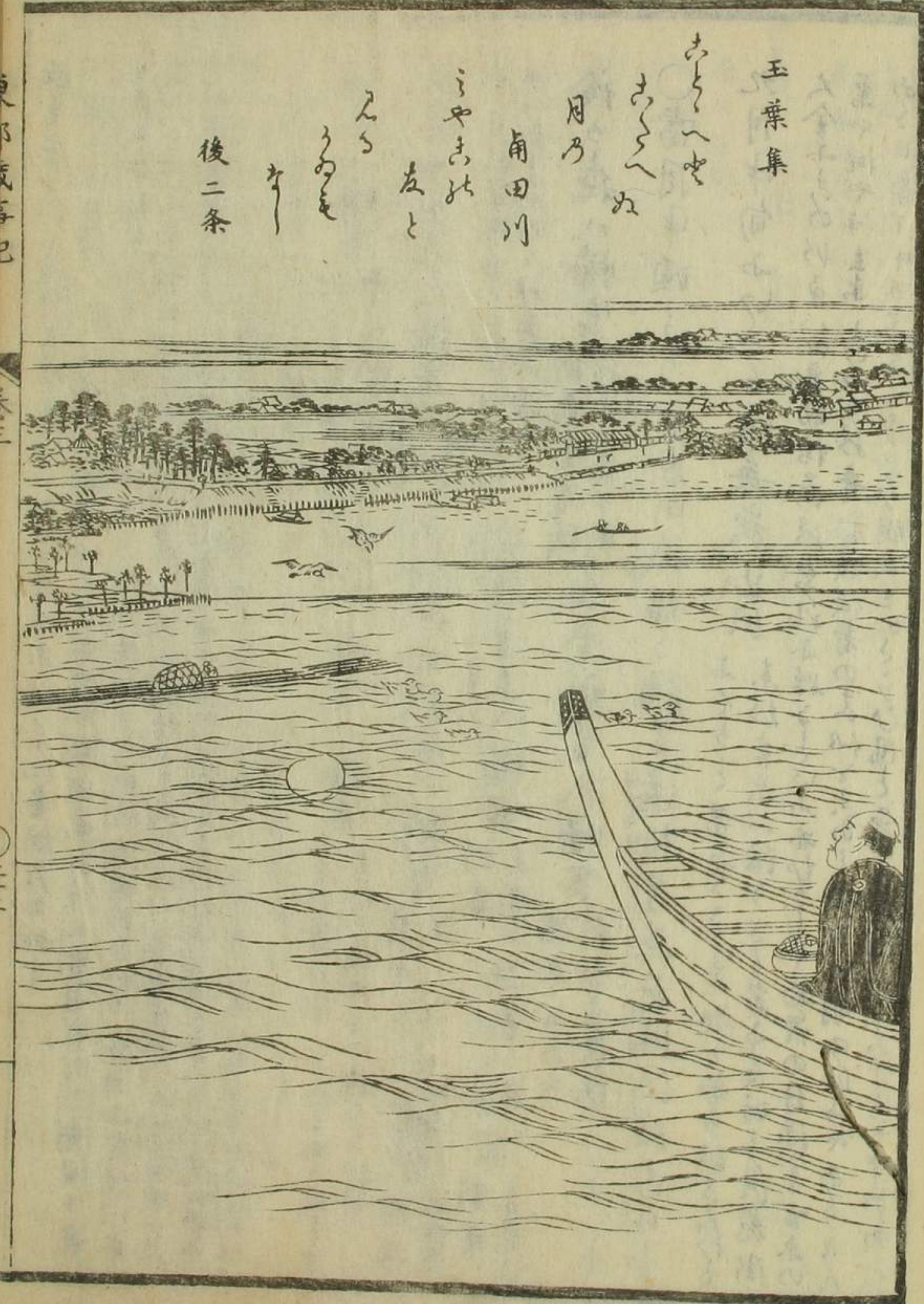
良夜墨水
看月

墨水連天濶秋
風二絕開潮平
明月湧山近白
雲來病癩人情
變歸心酒態哀
窮愁書未就短
髮虞卿催
金華



玉葉集

あつ〜んや
あつ〜んぬ
月乃
角田川
さやふた
左と
んさ
うのま
キ
後二条



東都雜事記

武藏野駒牽古事

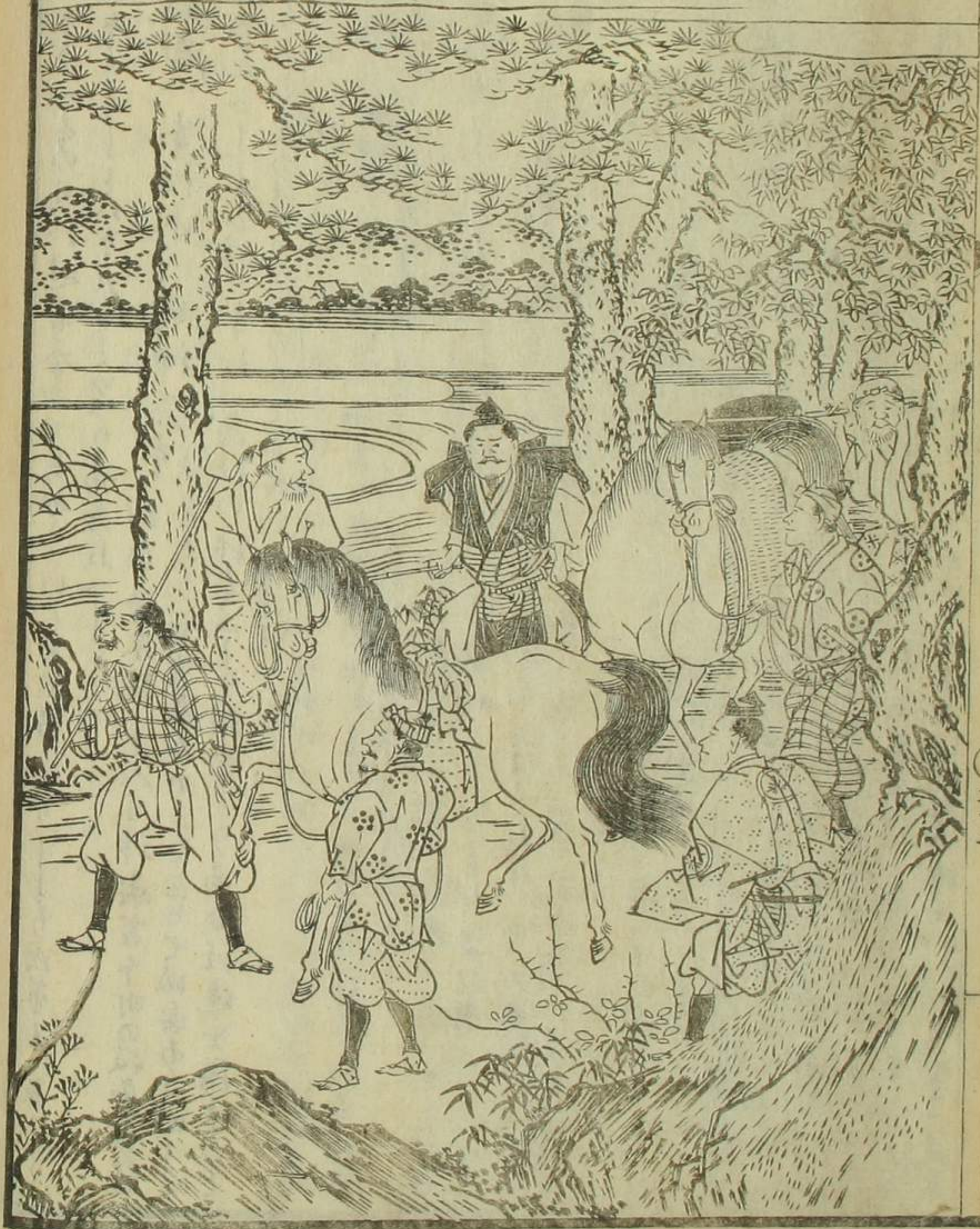


東都歳事記

卷三

三

後撰集
秋務の
立好
約と
ひく
は
のり
君や
あひ
忠房



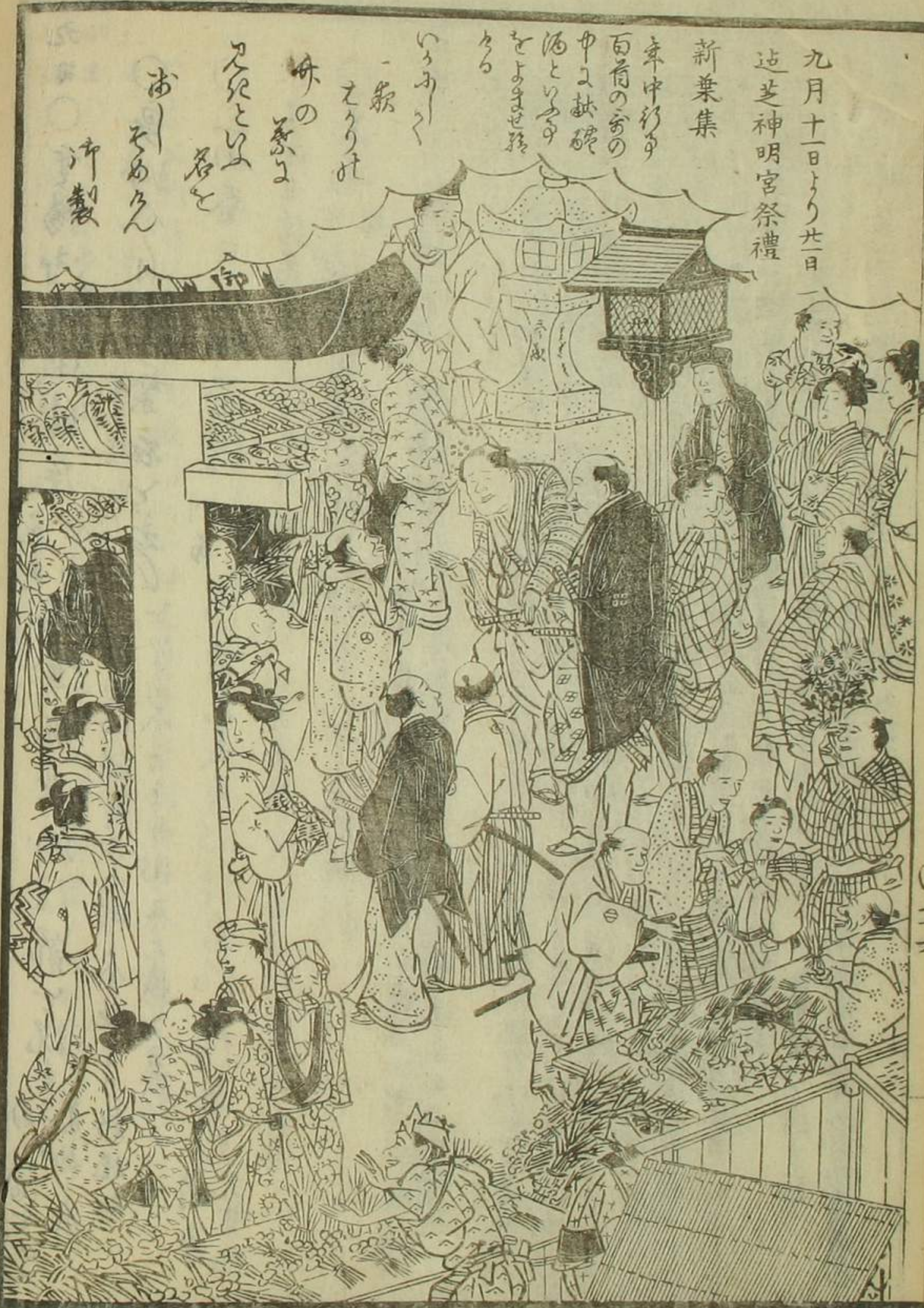
東都歳事記

卷三

三

九月十日より廿日
迄芝神明宮祭禮

新葉集



車中形
百首の寄
中二鼓磔
酒といふ
をよまき
る
いふ
一歌
そくり
の
煮
又死といふ
名を
おめえ
汗製

○今日の日言論言の拾新葉集 同不
妻泰も坊

十日 ○日蓮上人御秘の儀 文永八年九月十二日上人相別秘のいふ七秘と遊なむ
秘はもくは戸茶をまより活する者多し ○牛込様も町田様も四経舎敷入るまは
外流も院行

○芝居顔見の世界 芝居より小栗尾芝居本戸は又いふ老丈元の電も挑灯と出
まて顔見色の趣向と活をも秘すよとさるよーのり

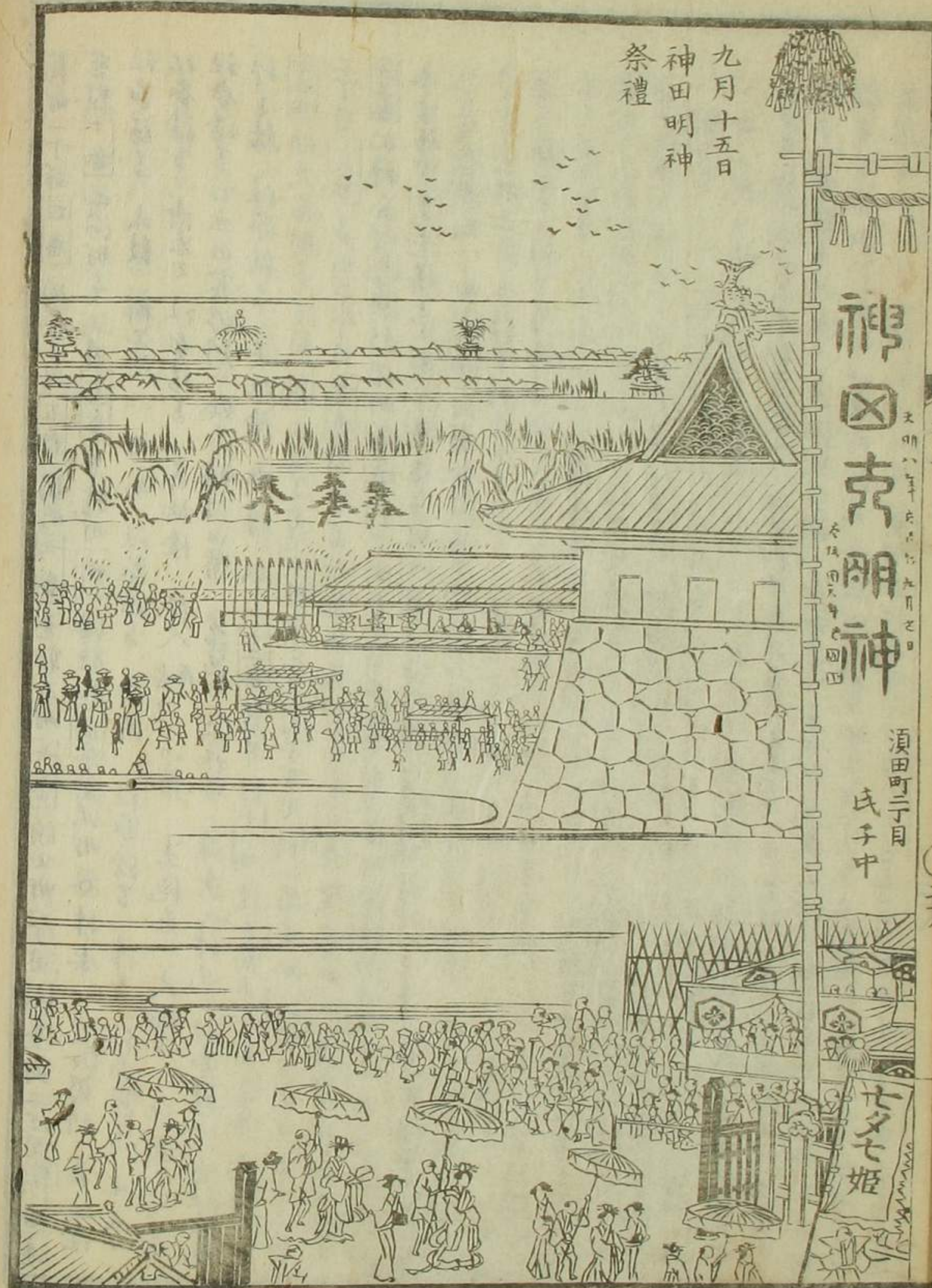
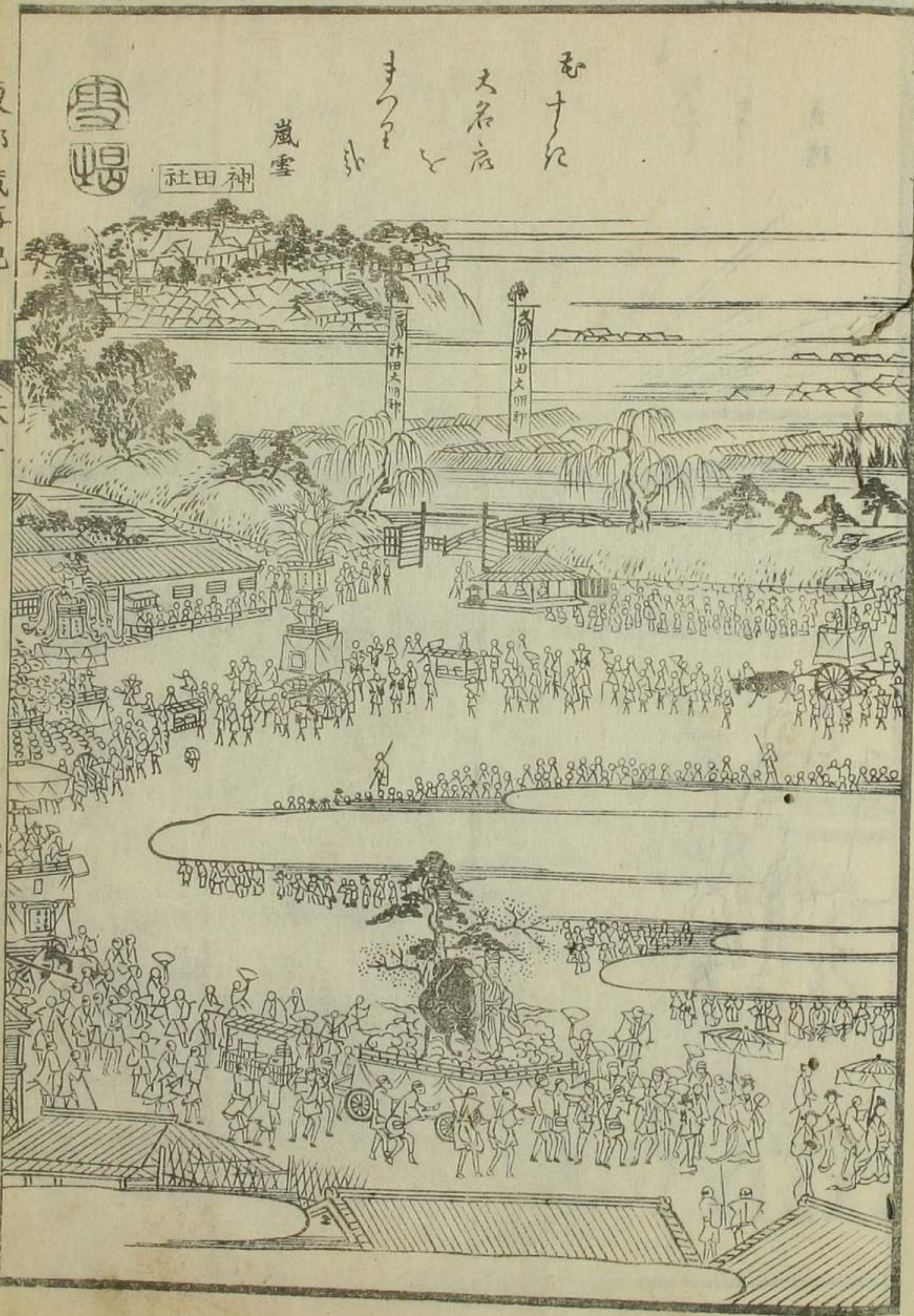
十日 ○香月 後の月宴といふ衣被りも 桑枝豆すきの花も月も休は和申目見ま
し 津田の作もれは弱武家町屋の肴棚と様へ挑灯と出

○源六間坊神明宮祭 別当様は泉養も古村家より八月廿六日の如
過月の別て旅ひ十一日より奉活多し

○堀の内妙法寺御師開帳 ○法美とぶ衣衣遠も御師開帳 ○難司衣宝塚も御師内洋
言田本松も御満御師子巻陀羅尼修り

十日 ○津田家丸の前目なり 世保和官又修りといふ人集れ勢揃ありり列と移へてを辺
と修りあり 是といふんとて遠をのま修し充満を今日

左筋の武家町屋も小も實客といふと養意のりともう潮の浪ひ等法よ乃ひか
社郎もも東浦祥集は多れあけつる町へ朝挑灯とけ大帳を衝し立酒樽蒸籠
積津浦も東浦理を○今日未刻津を東浦 社郎格多 布衣白丁あけ挑灯者と具し中社
於て祝詞を奏し津無りあり○法美日論言いふ八道社の修りかを法今の津



へ出宮町を丁目よりを丁筋遠隔年指と後り湯湯の河原より聖霊根の根より神社へ還幸ありは新産子の家より新挑打とて一升の足あけと後と休ませり

寛文二年壬寅九月江東吟葉 平岩仙桂作 繁華男女集随喜仰神田高下雕薨球收排朱闌鮮擲錢強願福擊幣

且求全聞説親王蹟嚴靈經幾年

○同社津奉能 今申一享保のあらまて八祭の年十六日又十八日無事と成り日まららばもいふを以て觀世令春室生令別のに座より出江戸中核後刻ありては終り小葉ひらり同くはより絶り

○津田 隔年祭礼の体とてなり産子の町くうげ祭と号して新地灯又種々の飾りけ未あり十日より見揚の性奉るまふくむ社奉活多し又町へ出り人形と飾りあり

○牛御前王子権現祭 別處最精も廿卯己未酉亥午隔年ふり牛御前の懸鐘も新町の津旅取へ津奉ありて今日ゆ祭あり産子の町敷多きうゆえ二日の白津奉と注りたる同一年より注津のゆり出り焼物い安永八年より出りあり

一番本不花町二番同長勝町三番同吉田町同新坂町四番同吉田町同吉田町二丁目五番同長勝町六番南本不元町本不尾上町七番同横綱町八番同石原町九番同外石原町十番同荒井町十一番南本不出村町中本不出村町十二番南本不青場町十三番南本不青場町十四番南本不出表町十五番中々竹丁十六番南本不元町同八軒町十七番同系庭町十八番同元町十九番同横川町二十番小橋代地丁二十一番南本不元町同三番同三笠町二十四番同長尾町

○下谷金掘村三嶋明神祭 村の祭南月八町の祭あり○津島十町三嶋明神祭 村の祭南月八町の祭あり○津島十町三嶋明神祭 村の祭南月八町の祭あり

○子住小橋系飛鳥明神祭 別處祭南月八町の祭あり○寺嶋村白鬚明神祭 出り後り物踊り出る津奉

○半込祭 去明神祭 別處祭南月八町の祭あり○寺嶋村白鬚明神祭 出り後り物踊り出る津奉

送りて仍人の足ととむ

○高田氷川社二十六夜祓禊○駒込野行と大山岡本不動寺岡帳

○半込系所報恩寺不動岡帳○入谷救世院鬼子母供子卷陀羅尼あり

○佃崎よりあり法會時中へ一尚宗少く無派あり今日迄の内築地を新築の由法寺て報恩講修りあり

廿九日○滋谷氷川明神祭後お撲無引 川崎 宝泉寺

景物

菊

○立冬より日 巢鴨深井辺桂木屋園中 寺崎村百花園

○外本不辺田舎ま心辺の桂木屋園中ふまゝ高比の菊の盛放てと一と云り○文化乃未
巢鴨の里小菊苑をもて人物を歎何くきと句くさぬの形と送る多時仍出て江戸の
まゆ日毎に群集しなすうう酒肆茶店とて杯をもち去り何れぬと縁ひしは父ととりふ
びとありめでありきしも幼き日の事して今も廿と母の背とみかりぬと後二三年ありてあのみ池
よりされと考まの花園は今ふりて一とて年毎小盛なり
むらさきのひよりといふ今江戸小白き菊の輪少く黄令用貴の如く少くいりたりと白
きとむい菊といふてと考るはまゆ日より出るうといりむい菊は高井戸の辺なりこの
辺又此の名物ありて夏日都下ふ出也

江戸歳事記卷之三畢

